

1

本ガイドライン作成の目的と経緯

1 本ガイドラインの目的

『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020 年版』（以下、本ガイドラインとする）の主たる目的は、がん疼痛のある患者の鎮痛ならびに生活の質の向上を目指して、診療に関わる医療者の臨床疑問に答え、治療の推奨を明らかにすることである。

また、推奨の実践に必要な基本的ながん治療に関する知見を、背景知識に示した。

2 2020 年版作成までの経緯

日本緩和医療学会は、2000 年 7 月に『Evidence-Based Medicine に則ったがん疼痛治療ガイドライン』を出版した。その後、2003 年から 2005 年にかけて厚生労働科学研究費補助金「がん疼痛治療におけるオピオイド鎮痛薬の適正使用に関する研究」において、次いで 2006 年から 2008 年にかけて厚生労働科学研究費補助金「緩和ケアのガイドライン作成に関するシステム構築に関する研究」において、ガイドラインの作成が試みられた。さらにその後、Minds による「診療ガイドライン作成の手引き」に準じて『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010 年版』が作成、出版され、さらに新規薬剤および新たな研究知見を追加した『がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014 年版』に改訂された。がん疼痛の薬物療法に関しては、新規薬剤の導入と、新たなエビデンスの公表が続いており、実地臨床の進歩に即した指針の提供のためには、数年単位でのガイドライン改訂が必要である。そのため、今回も 2018 年 8 月から作成を開始し、約 2 年の作成期間を経て 2020 年版の公表に至った。

3 2020 年版作成の経緯

本ガイドラインの作成にあたっては、「Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2017」に準じた。

作成組織として、がん疼痛薬物療法ガイドライン改訂 Working Practitioner Group (WPG) (医師 4 名) が統括し、Working Group (WG) として、システムティックレビューチーム (以下、SR-WG。29 名; 医師 9 名, 薬剤師 20 名) とガイドライン作成グループ (以下、ガイドライン作成-WG。19 名; 医師 15 名, 看護師 2 名, 薬剤師 2 名) の 2 つのグループを設けた。

2018 年 8 月に第 1 回改訂 WPG 会議を開催し、作成方法論の外部委員の協力も得て作成の準備を行った。以降、7 回の改訂委員会、外部評価およびパブリックコメントを経て作成された。作業内容と知識の統一化のため、「疼痛ガイドライン改訂作業ホームページ」を作成して作業の管理を行った。

臨床疑問は WPG で設定し、患者代表による外部評価を受け決定した。その後、WG 員を組織し、同年 12 月に京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野の協力を得て、SR-WG 員に対してシステムティックレビュー講習会を開催した。2019 年 1 月に SR-WG 員により文献検索を行い、システムティックレビューを行った。今回、文献検索式の作成にあたっては、専門家の監修を得た。またシステムティックレビューにあたっては、2019 年 2 月に 2 回の会議を開催し、議論と修正を重ねてエビデンス評価を行った。その後 WPG 員が推奨文を作成し、ガイドライン作成-WG 員による 2 回のインターネット上でのデルファイと会議を行い、さらに少人数の WPG、WG 員での会議により最終稿を作成した。

4 ガイドライン普及と活用促進のための工夫

- (1) 書籍として出版するとともに、インターネット上でも掲載する予定である。
 - 日本緩和医療学会ホームページ
 - Minds ホームページ
- (2) ガイドライン作成過程で作られた各種のテンプレートを掲載した詳細資料を作成し、本ガイドライン作成の経過やより詳細な内容を知りたい読者がインターネット上で閲覧できるようにする予定である。
 - 日本緩和医療学会ホームページ
- (3) CQ、ステートメントを英文化し、国際誌に掲載する予定である。
- (4) 日本緩和医療学会より、一般市民向けに「患者さんと家族のためのがんの痛み治療ガイド 増補版」が 2017 年に出版されている。当学会より改訂が必要とされれば、速やかに改訂を行うこととする。